

帯笑園保存会 会報

発行元 保存会事務局
 発行責任者 鈴木 邦親
 2014年10月10日
 No. 5

原地域の総力を結集して

帯笑園の保存運動を推進

―― 保存会の役員体制を一新 ――

保存会では帯笑園の保存整備を市に働きかけてきましたが、今年度から来年度にかけて用地取得が完了する運びとなりました。これからは、帯笑園の利用と活用、保存整備のあり方が重要な課題となります。保存会の運動も正に正念場を迎えているわけですが、庄司一幸前会長の突然のご逝去により今後の保存会の進め方について多くの方々からご心配をいただきました。

帯笑園にふさわしい施設整備と利活用を構想する検討会が取りまとめさせていただいた立派な「提言書」に基づき、その実現に向けて庄司前会長が地元選出の市議、商工会などへの働き掛けを進めていた矢先だっただけに、今後の「提言書」の具現化が懸案となっております。

そこで、これまでの保存会の組織の枠組みを大きく拡大し、連合自治会、コミュニティ推進委員会、商工会、市議会議員、各種団体の支援を得て、原地域の皆さんのお力を結集するような役員体制の構築を目指すこととしました。

本年九月二十日に開催された平成二十六年通常総会で、新会長には鈴木邦親連合自治会会長、顧問には新たに古川久連合自治会会長代

理、大村保二商工会会長、大場豊重、川口三男、城内務、浅原和美、殿岡修の前・現市議会議員にお就きいただくことになりました。また、副会長にはコミ推から常任委員長の鈴木泰次、役員の内林英彦、石川泉、商工会役員から中嶋國晴の各氏が新たに就任するなど、地元の総力を結集した体制が整いました。

帯笑園にふさわしい利活用と保存整備をめざした運動は今重要な時期に差し掛かっています。原地域の皆さんが帯笑園を郷土の宝であり誇りであることを実感できるような保存整備を進めてまいりますので、どうかよろしくご支援、ご協力をお願いいたします。

帯笑園保存運動は

帯笑園保存会

新たな段階へ

会長 鈴木 邦親

帯笑園保存会会長に選出されました鈴木邦親です。帯笑園に対する深い理解を持ち合わせぬまま会長職をお引き受けることになり、いささか戸惑いはございますが、原の宝である帯笑園の保存整備にあたり、皆さんの納得のゆく帯笑園らしい保存と利活用のあり方を目指して努力を傾ける所存でございます。

帯笑園の敷地は先達の御尽力により市が買い上げ、四百年余り続いた植松本家も他所に移転することとなり、この後の管理と利活用のあり方が問われるところとなります。その意味で、帯笑園の保存運動は新たな段階へ到達したことになります。私たちが望んでいたのは、帯笑園を単なる広場として残すことではなかったはずで、原



の歴史と文化が凝縮されたこの空間を登録文化財にふさわしい利活用が図られるよう保存整備することであり、地域振興に寄与する活用も目的の一つだったはずです。運動の原点を忘れず、力を合わせて新段階へ歩を進めてまいります。

浜名湖花博で帯笑園を展示紹介

今年春から六月半ばにかけ、十年ぶりに浜名湖ガーデンパーク、はままつフラワーパークを会場に開催された「浜名湖花博2014」で、今回も帯笑園を展示紹介するコーナーが設けられました。十年前の「2004浜名湖花博」は規模も大きく、初めての催しということで多数の人々が訪れました。その中の展示として、帯笑園の文物が大々的に取り上げられ注目を集めました。そして、これを機会に帯笑園に対する認識が一般の方々の中に広がったのでした。



今回は、全体の規模も小さなものではありませんでしたが、県内で催される花の博覧会に帯笑園の紹介は欠かせないということで、主催者から

協力を求められ、植松家が保有する帯笑園訪問者の芳名録や権錦帖、植木鉢などが展示されました。

会場の一隅には静岡伝統園芸保存会によるマツバラ、フウキラン、オモトなどの展示コーナーが設けられ、普段目にすることの少ない珍しい種類も展示され、興味深いものでした。同保存会の関係者から、現在県内で

愛好されているマツバランについては、元々は帯笑園にあったものが引き継がれているというのを聞き、たいへん驚きました。

駅北口のプラサヴェルデでも展示紹介

七月二十日、二十一日に行われた沼津駅北口のプラサヴェルデのグランドオープンに際し、そのような伝統園芸植物と地元の帯笑園との所縁から、同会が新キラメッセにおいて伝統園芸植物を展示するところとなり、本会もこれに合わせて帯笑園の紹介コーナーを設けることとなったものでした。



今年4月5日～6月15日「浜名湖花博2014」浜名湖ガーデンパーク会場で展示されたマツバランなどの伝統園芸植物

〜 浜松市天竜区北鹿島

筏問屋田代家住宅を訪ねて

帯笑園保存会幹事 杉本 伸三

浜松市天竜区に、徳川家康の遠州経略に協力した功績により天龍川の筏川下げと諸役免除の特権を与えられ、筏問屋を経営した田代家という旧家があり、同家から寄贈された一五〇年前の建物を資料館として活用し、観光交流など地域振興に寄与している団体がある聞き、今後の帯笑園の利活用と運営管理の参考になるのではと考え、浜名湖花博見学の途次、立ち寄ることにしました。

約二千平米の敷地に八一坪の木造二階建ての民家風の母屋が建っています。虫籠窓や出桁形式を備え、一部は数寄屋づくりの趣のある建物内には、管理を委ねられた地元「鹿島田代家交流振興会」の会員の方が詰め、夏なら冷たい麦茶で、寒くなると温かい煎茶で訪問客をもてなしてくれます。



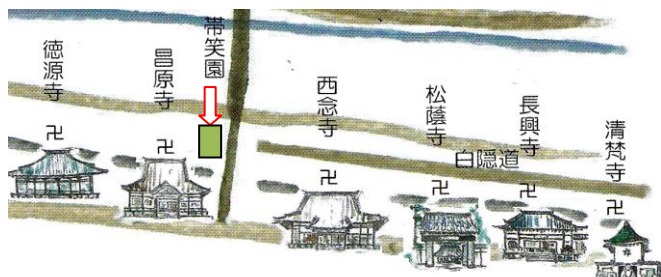
屋内には田代家の先祖が家康から授かった御朱印や同家に伝わる資料が展示されています。建物が古いので、内部は少し暗いのですが、廊下に出て庭を眺めると落ち着いた風情が感じられます。運営管理の方法についてお訊ねしたところ、開館日は毎月

土日曜・祝日で、一〇人の振興会会員が交替で詰めるとのことでした。開館日には二人で管理に当たるので、一人の会員は月に二回程度当番をします。立ち寄る観光客は年間二千五百人程度で、年間の開館日数一一五日で除すと、一日当たりの入込客は平均で二十一人になります。帯笑園では月に一回の見学会に数人〜二〇人程度の見学者が訪れていますから、土日曜祝日に開館する田代家住宅のような運営方法でも十分市民の期待に応えられるのではないのでしょうか。

次に経費ですが、市からは年間七〇万円の管理委託料が支出され庭の掃除や雑多な経費も含めてこれで賄われているとのことでした。これなら、管理に要する人件費を削減できた分を庭木の剪定や草花の手入れに予算を振り向けることが可能になります。

今後の帯笑園の利活用のあり方については様々な考え方があろうが、浜松市では田代家住宅を資料展示と観光客の休憩のための施設として位置付け、「北鹿島展示休憩施設」として一般公開しています。付近には天龍川の景勝地や二俣城などの史跡があり、歴史散策路の途中にある休憩施設として観光振興に寄与することが期待されています。

原・浮島地区には、旧道沿いの白隠ゆかりの寺を訪ねたり、寺院や神社の年中行事を楽しんだり、興国寺城跡や阿野全成の墓、井出丸山古墳などの史跡探訪や浮島ヶ原の自然に親しむことのできる地域資源は豊富に存在しています。これらの地域資源を活かした観光コース上の休憩施設、観光案内の拠り所として帯笑園の利活用が考慮されるべきです。そのためには、帯笑園のみならず原・浮島地区を案内できる人材を養成することが急務なのではないでしょうか。



原ではお寺や神社を年中行事のときに訪れるのも楽しい

桜草の育て方教室を開催



毎年の桜草観賞会で求めた桜草の苗が夏を過ぎたあたりから見当たらなくなつたという経験は誰しも一度はあるものです。今度こそ、春先にあの可愛らしい花を咲かせたいと願う会員さんからの要望に応えて、五月十日、原地区センターで、「桜草の育て方教室」を開催しました。本会の募つた参加希望に応じて参集した四〇名の受講者は、「沼津さくらそう会」代表の真野契子さんからお話を聞かせてもらい、実際に桜草の苗を用いて懇切な指導を受けることができました。受講者は、真野さん、アシスタントの武川利一さん、大場千香子さんが用意してくれた桜草の苗をお土産に、次回の教室開催まで可愛がつて育てることになりました。講師の真野さんによれば、コツは、毎日の水遣りを忘れないことと、半日陰のような所で育てることだそうです。

次の階階は育つた根を分ける作業が大事で、水はけがよく保水力もある新しい土を盛つた鉢に、分けた根を植え替えます。真野さんからじっくり教わり、来春には花を咲かせた桜草と対面したいものです。

第二回の教室は、
十一月二十九日(土)
午後二時から原地区センター二階第一会議室で開催します。
(第一回受講者を対象)

伝統園芸植物「松葉蘭」をご存じですか？

江戸時代文化文政(一八〇四〜二九)期には、観賞植物の「斑入り」「花色の変化や変化する」「矮小、捻じれ等容姿の変化」等を『芸』と称し、姿形に合わせた『名』を命名し、珍重するなどの趣味が盛んとなりました。熱狂的な愛好家の間で投機的な取引が行われ、禁止令が出るほどでした。そのような植物群の中に大変希少な「松葉蘭」があり、現代にも密かに受け継がれています。そして、現在残されているものの多くは、戦前まで植松家の帯笑園で育てられていたものが譲り渡されたものだといえます。今年、浜名湖花博、プラサヴェルデで展示された「松葉蘭」などの伝統園芸植物を所縁の深い帯笑園で紹介したいという希望が関係の方々の間で語られ、実現に向けて準備が進められています。実現の運びには、会員のみならず広く市民の皆さんにお知らせするとともに、「松葉蘭」などについての知識を得る機会を設けたいと考えておりますので、ご期待ください。

本会への貢献に感謝し、御冥福をお祈り申し上げます。

庄司一幸前会長は、植松善夫元会長の後を継ぎ昨年の総会で会長に選出されましたが、七月三十一日御病氣により逝去されました。振り返りますと、十三年前、本会の創設に多大なご尽力をされ、以後副会長として会を支えて来られました。さらに昨秋は、帯笑園の整備と利活用を構想する検討会を立ち上げ、今後の活動の指針となる「提言書」のとりまとめに指導力を発揮されました。温厚で篤実なお人柄ゆえ多くの方々から慕われた庄司一幸前会長がお亡くなりになったことは洵に残念です。